

ビジネス

日本語

最前線

内定ブリッジ株式会社

オフィスの日本語

コミュニケーションスキル研修

外国人材の活用を進める日本企業にとって、外国人新入社員がスムーズに社内に溶け込み定着できる環境を整備することは重要なポイントだ。しかしそのベースとなる日本語コミュニケーションには、日本人と外国人とで理解のギャップが生じやすい様々な落とし穴がある。それを日本人にも外国人にも共に理解してもらい、社内のコミュニケーションスキルを向上させる研修を行っている。内定ブリッジ株式会社の研修現場取材した。



言葉の背景を理解し良い伝え方を話し合う (中央は浅海氏)

双方向の 気づき促す

内定ブリッジ株式会社(東京都千代田区)では、こ

れまで延べ30社、通算60カ国以上の外国人社員および日本人社員におよび日本語研修を行っている。

「同社代表の浅海一郎氏が10月にテックファーム株式会社で行った研修では、日本人社員と外国人社員がペアを組み、解

りていた」と趣旨を説明。ネイティブ話者の日本人にも気付きを促すそのスタンスは、

「日本語は世界で最も文脈依存度が高いといわれる

「悪気なく発した言葉が日本人にとってストレ

「昇進の基準が不明確」、「昇進のチャンスがある」といった印象を抱

ギャップを理解し伝え方向上 外国人と日本人で学び合う

の研修とは一線を画する双方向的なものだ。

言語で、会話の中

景にある日本文化

「外国人は生意気

「外国人は生意気

日本人は発する情報量が少ない

「何の指し示をしようか」という指示を

「外国人は生意気

「外国人は生意気

「外国人は生意気

向学新聞編集部視点

これまで政府や民間機関が行った様々な調査において、多くの外国人が日本企業に対し「昇進が遅い」、「昇給格の基準が不明確」、「昇進のチャンスがある」といった印象を抱

「悪気なく発した言葉が日本人にとってストレ

「外国人は生意気

「外国人は生意気